特別講演②

◆柔道整復師と整形外科医・スポーツドクターとの『共闘』

関西医療大学　はり灸・スポーツトレーナー学科　教授（スポーツ医科学研究センター長）
増田　研一

【key words】スポーツ医学、MRI、レッドフラッグ

【Abstract】

トップアスリートから健康寿命維持を目標とする高齢者まで広い対象につき『運動器』をターゲットとした医学的アプローチ（診断/治療・施術/予防）の重要性が今後さらに増していくことは間違い無いと考えています。その中で柔道整復師と整形外科医・スポーツドクターが様々な傷害を各々の立場よりアプローチしていく流れも基本的に変わらないと思います。当方の約 40 年間の臨床経験およびスポーツ現場での体験から、柔道整復師と整形外科医・スポーツドクターそれぞれの業務・役割は対立すべきものではなく、各々の『武器』をもって患者・選手等に対して『共に闘う』のが好ましい存在であると常々考えております。その観点から今回の枠では 1：患者・選手に対するリスクのみならず治療・施術する立場の我々にまで『火の粉』がふりかかる可能性があるレッドフラッグの経験、そしてそういう状況を回避すべく注意点などを説明させて下さい。2：私が主に関わる整形外科領域だけをとってもここ数年診断➡生成 AI/手術➡ロボットの傾向に拍車がかかってきております。日常の業務内容が大きく変わってきているわけで、医療職全体の立場も変化のスピードが早まってきていると毎日感じます。そういった激しい変化の傾向の中においても、次世代を担って頂く若い医療人にとって『スポーツ』のもつ価値は大きく変わらないと個人的には思います。その普遍的な価値観と職業のオーバーラップを提供したいという考えのもと、本学で継続しておりますアスレティックトレーナー育成・教育の現状を説明させて下さい。